



【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒



富士見台中学校HP

時間を管理し、運を味方につける

4月18日(木)の結団式のことです。

各団とも3年生を中心に熱量高く盛り上がりとともに、これから一年間、特に体育祭に向けてこの団でがんばろうという気概を感じました。そして、最後は全校が朝礼台前に集い、各団の応援披露と全力の「選ばれし者たち」で解散。終業のチャイム時に校庭に残っていた生徒は、ほぼいませんでした。完璧な時間管理のもと、非常に充実した取組となりました。「令和6年度の富士見台中学校は、これまで以上に一致団結してよりよい方向に進んでいく」と、今後への期待があふれてきました。

その一方、毎日のように校内では時間ギリギリの行動を目にします。

例えば、午前8時25分。始業5分前にもかかわらず、多くの生徒が昇降口に入ってきます。8時30分の朝読書開始には着席していますが、入室後わずかな時間でバタバタと準備したことが一目でわかる机回りとなっています。朝の清々しい時間に心落ち着けて読書に向かう生徒と、朝ギリギリに登校して荷物を適当に片づけて、読書しながら呼吸を落ち着かせる生徒。両者を比較して、どちらに幸運がもたらされるかは聞くまでもありません。また、午後5時58分。最終下校時刻2分前ですが、校舎内外にはまだ多くの生徒がいます。部活動終了後の片付けに時間がかかるのは仕方ないのですが、もう少しどうにかできないかと思えます。もちろん、これは我々教員も意識を高くしないといけないことです。さらに日中は、教室移動の際に各階の廊下を走る生徒もいます。そういう生徒に限って大きな足音と大きな声を出して移動します。そして、ここでも「ギリギリセーフ」を繰り返していきます。職員室で先生方が大切な話をしているかも、通級指導教室が授業中かもという思慮に欠けていると感じます。

棋士の谷川浩司さんは、「一人一人がもっている運の量は平等」であり、運が悪い人というのは、つまらないところで運を使っていると語っています。毎日のように「ギリギリセーフ」を繰り返している人は、そういうところでせつかく自分に与えられた「運」を使ってしまっているかもしれません。実にもったいないことです。また、スポーツでも芸術でも、その道のトップクラスの人は、時間に余裕をもって会場入りして、しっかりと準備に時間を費やします。開始直前に到着するようなスケジュールで動いていると、電車が遅れるなどのトラブルに巻き込まれたらそれこそ大変なことです。なんとか開始時刻に間に合ったとしても、そこで運を使い果たしたことになるってしまいます。

5月に入り、体育祭練習や関係する準備が増えてきて、ますます時刻や時間に追われることが予想されます。限られた時間の中で、あれこれしなければならぬときだからこそ、結団式のときのように時間管理が大切です。もちろん、これは体育祭に限ったことではありません。

時間を管理し、運を味方につける。5月はこれを意識して、毎日を過ごしてくれることを願っています。

この地上に同じ人間は一人もいないが、たった一つだけ同じ条件の中で人は生きている。

それは、1日24時間を平均に与えられていること。それをどう活かすかが、その人の人生であり、責任である。【元経団連会長 土光敏夫】

台 中 の 風 景

